

被災地からの経験・教訓の共有と継承

常葉大学大学院環境防災研究科
重川希志依

環境問題 防災問題



常葉大学富士キャンパス



昭和34年伊勢湾台風から36年後



1995年1月17日

阪神・淡路大震災

1995年1月17日阪神・淡路大震災発生

- 行政も，市民も，ボランティアも，全ての人が今，何をなすべきなのか分からなかった。
- 全ての人が，これから起こるであろう事を予測することができなかった。
- "防災研究"といいながら，いったい今まで何をやってたのだらうと自問自答をくり返していた。

初めて直面した生活再建支援



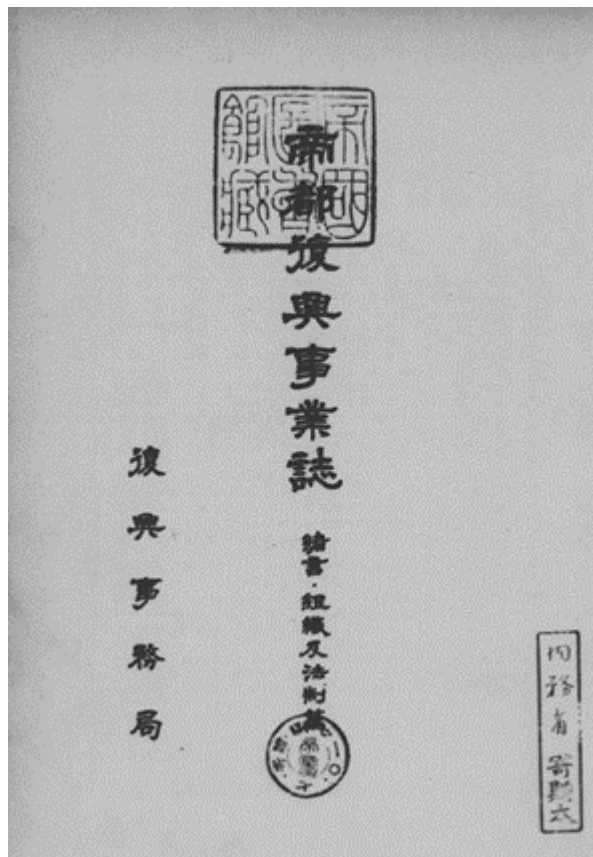
避難所での震災後関連死
500名



仮設住宅での孤独死

“復興誌”にとり上げられる内容

関東大震災（大正12）



計画，監理，建築，土木，
公園，土地区画整理

阪神・淡路大震災（平成7）



生活，文化，住宅，福祉，
保健・医療，教育，産業，
都市計画・まちづくり，
都市インフラ

限界を超えるためのエスノグラフィー調査 成果の共有

公式の報告書、量的調査に基く成果の限界

- **関東大震災，伊勢湾台風など，公的報告書，論文，データは多数残されていた。**
- **それまで残されていた，様々な資料は，これから起こるであろう災害対応プロセスの全体像を理解するためには役立たなかった。**

東日本大震災災害対応に関わる エスノグラフィー調査

【女川町】 町長， 災対本部職員（2012年2月15日）



エスノグラフィー研究を通して実現 させたかった事

分散して蓄積されているその
場限りの経験を集約し、体系
化する試み


岩手県宮古市田老地区

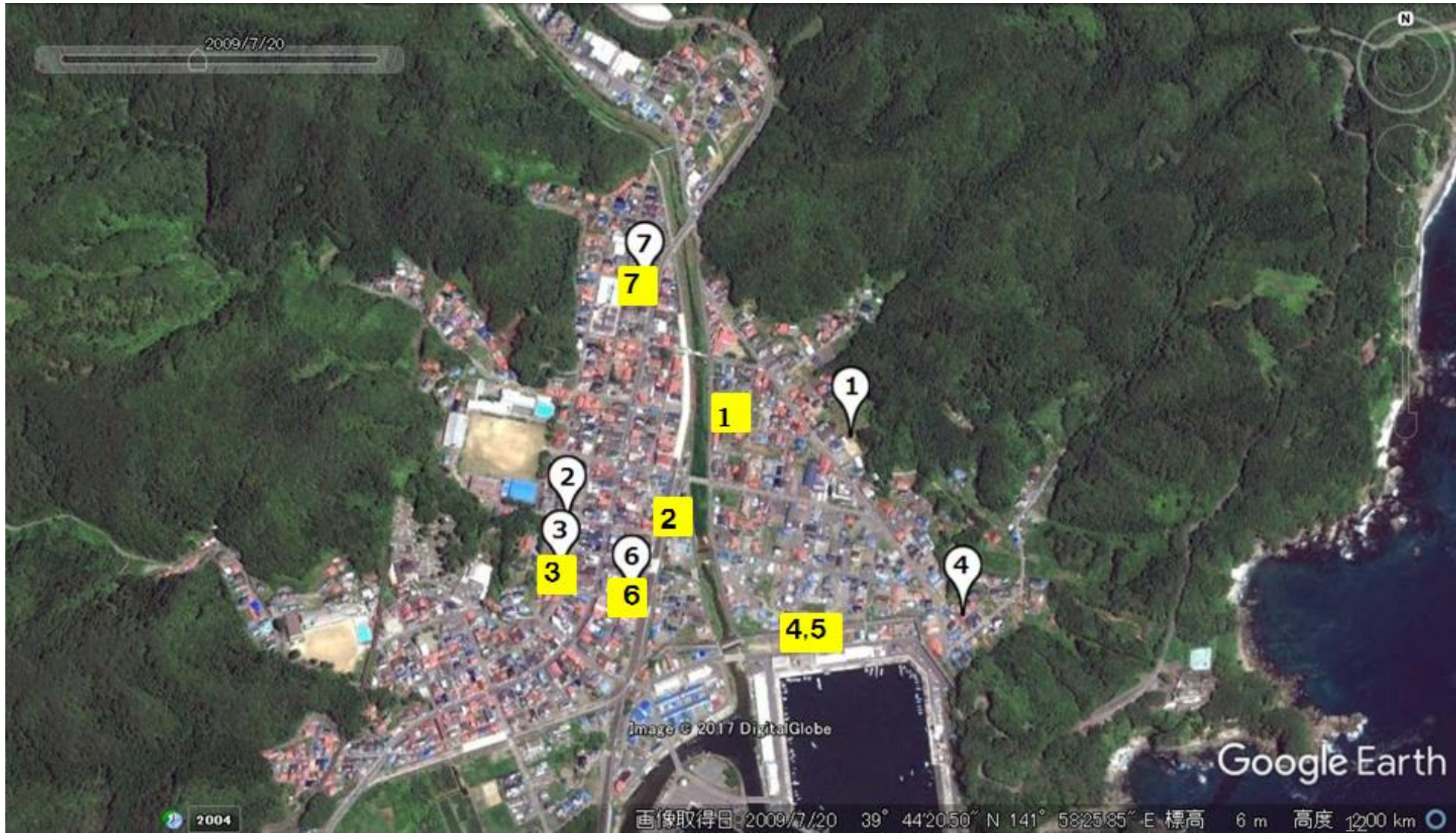


明治39年 明治三 陸地震津波	犠牲者1,859人(全 犠牲者22,072人)
昭和8年 三陸地震 津波	犠牲者911人(全犠 牲者3,064人)
昭和33年 津波防 浪堤(第一堤)完成	昭和9年着工, 延長 1,650m
昭和35年 千り地 震津波	小型漁船20隻流出
昭和43年 十勝沖 地震津波	漁船被害
昭和54年 津波防 浪堤防(第二堤)完 成	総延長2,433m
平成23年 東日本 大震災	犠牲者181人(死者 発生率4.1%)

津波により犠牲となった方の居住地と犠牲となった場所

 居住地

 犠牲となった場所



津波による犠牲者と避難成功者

- ✓ **全員、田老生まれの田老育ちであり、地震→津波→避難の必要性は認識**
- ✓ **昭和8年三陸地震津波を直接体験した親族から、避難の必要性を直接聞かされていたことが重要な役割**

「人」から「人」へと伝える

形のあるもので共有・伝承

形のないもので共有・伝承

形のないものを共有・伝承するためには

Team Sendai の挑戦



記録をとる



記録を残す

■映像、音声、文字を残す

■デジタルデータの危うさ

- VHS、フロッピーディスク・・・もう再生できる機器がない
- デジカメ、ボイスレコーダー、USB、DVD・・・いずれそうなる

■記録の所在を後世にまで伝える手段

- 和紙に墨書きが最も有効？
- ISBNをつけ国立国会図書館で保管

共有と継承

分散して蓄積されているその場限りの経験を
集約し、体系化する



インタビュー記録を短縮したテキスト
何も加えず、何も変えず、ただ削るだけ
の作業



現場の知恵や工夫を紡ぎ出す

“中越大震災ネットワークおぢや”設立

2005年10月



ネットワーク
おぢや

設立の目的

- **新潟県中越地震の災害対応で蓄積された経験と教訓の共有**
- **次の災害で経験者としてアドバイス, ノウハウの提供**
- **そのための人的なつながりの拠点のひとつ**

中越大震災ネットワークおぢやの活動

被災地応援活動

1. 能登半島地震
2. 新潟県中越沖地震
3. 静岡県小山町水害
4. 東日本大震災
5. H23年7月福島新潟豪雨災害
6. H26年4月熊本地震



研修・トレーニング活動

1. 研修会
2. 建物被害調査トレーニング



「人」から「人」へと継承することの難しさ

- ✓ 時の流れとともに熱い気持ちは薄れていく
- ✓ 人事異動、世代交代の溝を乗り越えるためのしくみ